

「師範徴兵の海軍生活～南方の海での駆逐艦避雷体験～」 富田国治氏

富田さんには、護衛として乗艦した駆逐艦が、アメリカ軍の魚雷を受け、九死に一生を得た経験を中心に語っていただきました。

昭和 17（1942）年、第 3 期師範徴兵として、海兵団に入団。3 か月の訓練を経て、瀬戸内海で「長門」に配属される。昭和 18（1943）年、第 4 駆逐隊「萩風」配属となる。その後、浦賀を発ってトラック島に行き、航空母艦の護衛駆逐艦として周辺海域周航する。連合軍にガダルカナル島に続きコロバンガラ島周辺を占領されると、同島守備隊への物資補給のためニューブリテン島のラバウルから「萩風」で食糧や弾薬を運ぶ任務を行う。1 回目、2 回目は無事任務完了する。

昭和 18（1943）年 8 月、駆逐艦「萩風」で自身 3 回目の物資輸送にあたり、8 月 6 日未明ラバウルを発ったが、ベラ湾夜戦で魚雷を受け沈没。4 隻の駆逐艦のうち「萩風」、「嵐」、「江風」の 600 人以上とともに、夜の海に放り出される。しばらく経って一人の日本兵を発見。はぐれないように軍服のズボンの紐をしばって泳いだ。いくら泳いでも一面海だったが、約 30 時間泳いだ末、島にたどり着き奇跡的に生還する。

（講演の内容は、「資料館だより」から転載しました。）